



異文化理解で世界をもっと身近に

当協会では、多様な国や地域の文化に触れることができるイベントを開催しています。詳しい情報やお申込み方法などについては、ホームページの『イベント』からご覧ください。



HP

🕒 時間 📍 場所 💰 参加費 👤 対象者 📅 申込期間

3/21 (土)

世界お茶のみ話 エジプト編

エジプトの文化や歴史などについて講演します。

🕒 10:00 - 11:30

📍 コリドイオ3階 多文化共生ルーム

📅 3月4日(水)から

5/16-17 (土・日)

つくばフェスティバル2026

今年もつくばフェスティバルが開催されます。各国の料理や踊りなどを通して楽しく国際交流しましょう！

🕒 10:00 - 17:00

📍 つくばセンター広場、コリドイオ、大清水公園

4/7 (火)

おとなの日本語講座

2026年度の前期コースが始まります。週1回、1時間のクラスを15回実施します。レベルや形式により開催日時が異なりますので、詳細はホームページをご覧ください。

👤 外国人市民

💰 2,000円 (全15回)

📅 3月2日(月) 9:00から随時



つくば市国際交流協会ニュースレター

Link!

ーリンク！

Vol. 21

2026.3



当協会の布浦理事長を交えた集合写真

日本留学を目指す学生が伝統文化を体験

本場の日本文化体験を将来の糧に

12月8日(月)に、インドネシアのジョグジャカルタから学生19名が来日し、短期留学プログラムの一環として日本文化体験を実施しました。このプログラムは、現地の日本語学校校長であり、当協会とも長年交流のあるルッシーさんが主催しており、インドネシアの学生たちに日本文化体験や学校訪問などを通して、今後の成長に活かしてもらうことを目的としています。

学生たちは、まず着物の試着体験を行いました。特に女子学生たちは自分で選んだ振袖を着付けてもらい、とても嬉しそうにたくさんの写真を撮っていました。その後、和室にて茶道体験を実施しました。ルッシーさんのお点前を参考に、慣れない服装で正座をしながらも、真剣に取り組んでいました。修了式を終えた後、着物を脱ぐ際には皆さんとても名残惜しそうにしており、この体験を楽しんでいただけたことを実感しました。

今回、着付けボランティアとして『虹の会』、茶道ボランティアとして『一掬の会』の皆様にご協力いただきました。体験終了後には、無事に体験を終えられたことに安堵の表情が見られ、今後の学生たちの活躍を願う様子がうかがえました。当協会としても、今回の体験が学生たちの成長の一助になることを期待しています。

随時募集中！

ボランティア制度改定のお知らせ

昨今の需要や活動状況を踏まえ、2026年度から制度を改定いたします。これに伴い、規約や活動項目などが変更となります。今後はボランティア育成も含め、より一層の取り組みを進めてまいります。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

詳しくはこちらから →

賛助会

当協会をご支援いただける方を募集しています。ご加入者には、当協会の講座の割引やノベルティのお渡しなどをしています。

詳しくはこちらから →

令和7年度の賛助会員団体・企業様 (敬称略)

浅野物産(株)、(株)Ali's Group、飯野工業(株)、一掬の会、(一社)観光コンベンション協会、(株)建築設計室匠工房、関彰商事(株)、ダイワリース(株)、(株)高田工務店、つくばヘレナ高等学院・ヘレナ中等部、TIVONAの会、日本つくば国際語学院、(株)Bitte、(株)RIGRACE

ご支援いただきありがとうございます

編集・発行

一般財団法人 つくば市国際交流協会
〒305-0031 茨城県つくば市吾妻 1-10-1 コリドイオ1階

営業時間 8:30 - 17:15 土日祝日休み
TEL 029-869-7675
FAX 029-869-5356
EMAIL info@inter.or.jp
HP https://www.inter.or.jp



HP



Facebook



Hot Topic 1

現在進行中！
プレスクール・プレクラス事業開始に向けた準備の裏側

つくば市では、外国人居住者の増加に伴い、学校生活に必要な日本語能力に課題を抱える子どもたちが増えつつあります。つくば市はそのような子どもたちを支援するため、プレスクール・プレクラス事業を立ち上げ、当協会では2026年4月から新規事業として取り組みます。今回は本事業の立ち上げに関わる日本語学習支援員のお二人にインタビューをしました！

吉田 麻子 さん

Q1. 自己紹介をお願いします。

最初はJICAの研修員の人たちに、その後は大学・日本語学校の留学生に日本語を教えてきました。昨年度、登録日本語教員になりました。仕事と並行して、娘の入学した小学校の日本語学習支援をきっかけに、35年以上細々と子どもの日本語学習支援に関わってきました。

Q2. 現在取り組んでいることについて教えてください。

2026年度から始まるつくば市のプレスクール・プレクラス（日本語が全く分からない子どもたちのための初期集中日本語教室）に向け、授業内容の検討や、日本での学校生活を理解するのに助けとなるような保護者向け資料の準備をしています。また、受け入れ側の学校の先生には、複数言語で育つ子どもたちをよりよく理解するのに参照できるように、子どもの状態把握のためのチェックリストを作成しています。

● 併せて、既に当協会で開催している小中高生向けの放課後日本語教室や、年齢期を過ぎての来日で学校に行けずにいる子どもたちの日本語学習支援の充実にも取り組んでいます。

Q3. 子どもたちに日本語を教えることにやりがいを感じますか。

● 正直言って「やりがい」ということはあまり考えたことがありません。ただ、ふたつ（以上）の言語で生きていくことになった子どもたちが、周りの人たちと人間関係を構築し、考えるためのことばの力をつけ、自分の未来を切り開いていくのに少しでも加勢できるのであれば、子どもたちより少し先に生まれた人間として役に立っているのでは、と思っています。



蓮沼 麗子 さん

Q1. 自己紹介をお願いします。

つくば市内や近隣市町村の学校で7年ほど日本語ボランティアをして、2年前からはつくば市の小中学校で日本語学習支援員をしています。

日本語を教えるようになったのは、つくばで知り合った外国人の方に「日本で外国人が暮らすのは本当に大変。困っている人がいたら助けてあげて。」と言われたことがきっかけです。帰国子女だった夫に「外国暮らしは子どもも大変か」と尋ねると、「ものごとろがつき、自分の家庭と周りとの違いに気づくと不安を感じるようになった」とのこと。勤務していた塾には外国ルーツの子が増えてきていました。子どもに特化して日本語を教える人は少ないという話も聞き、子ども向け日本語教育の世界に入るしかないと思いました。

Q2. 事業の準備について、大変だと感じることを教えてください。

大変なのは、教材の準備ですね。全員が日本語入門期のお子さんとはいえ、年齢も異なりますし、

● 子どもによって知識の量も様々と想定されます。どれだけ幅広い教材を用意できるか、またそれを活用する方法をたくさん考えられるか、一生懸命頭をひねっています。

Q3. 事業の開始に向けての意気込みをお願いします。

● このプレスクール・プレクラスは、日本語入門期の子どもが学ぶ場ですが、指導者が情報を交換したり指導法を学んだりする場にもできたら、将来的につくば市の総合的な子ども向け日本語教育の拠点となりえるのではないかと考えています。子どもの学び、指導者の学びに繋がることを色々考えていきたいと思っています。



Hot Topic 2

本場の味を学ぼう！
インド料理教室

インドならではの材料やスパイスを使い、本場のインド料理を作りました。



お店を営む夫婦が教えるベジタリアン料理

国際理解を目的に年2回程度開催している料理教室。今回はインド料理を作りました。講師としてお招きしたのはチャンドランさんとアナンディさんのご夫婦。日本での仕事を退職後に、お二人の趣味が料理であることから、ベジタリアンのインド料理店を始めたそうです。

まず作り始めたのは『アルパラタ』というパン料理。様々なスパイスで味付けしたマッシュポテトを、アタ（全粒粉）の生地で包み薄く伸ばして焼きます。中身が出ないようにやさしく伸ばさなくてはならないためコツがいるようでしたが、皆さん上手に形を作っていました。

つぎに『ゴビマタル』という野菜カレーに取り掛かります。カリフラワーとグリーンピースをメインに、野菜ピューレやスパイスを混ぜ合わせて炒めます。インド料理では、スパイスを入れる順番やタイミングが重要とのこと、アナンディさんの説明を皆さんメモを取りながら熱心に聞いていました。

最後に、ヨーグルトと牛乳を混ぜ合わせた飲み物の『ラッシー』や、ココナツの粉と練乳を混ぜて丸めたお菓子の『ココナツラドゥ』を作り、全ての品が完成しました。

アルパラタを手でちぎり、ゴビマタルにつけて食べるのがインド流です。そのため、アルパラタは味が薄めで、ゴビマタルのスパイシーな風味とよく合います。さらに、ラッシーのさわやかさとココナツラドゥのやさしい甘さが、辛さを中和してくれます。参加した皆さんは料理を味わいながら、講師のお二人と料理に使用した材料の話や日本に来た時の話などの会話を楽しんでおり、有意義な国際交流の場になったと思います。

